



JAC GUNMA

公益社団法人

日本山岳会

群馬支部報

第23号

2024年
9月18日

2024年度通常総会を開催

4議案を承認

根井支部長「骨太の群馬支部を」

公益社団法人日本山岳会群馬支部の2024年度通常総会が5月15日、前橋市中央公民館で開催され、24年度事業計画案、予算案など4議案が原案通り承認された。

根井康雄支部長は開会あいさつで、昨年の支部設立10周年を記念したヒマラヤトレッキングや北海道支部との交流登山、全国支部懇談会のみなかり開催などの経験を踏まえ、「次の10年に向けて支部の仲間の力を結集していこう。安全で楽しい登山を目指して、みなさんの力を寄せ合って骨太の群馬支部をつくっていききたい」と呼びかけた。

議案は、2023年度事業報告、同決算報告・会計監査報告、24年度事業計画案、同予算案。小池千秋事務局長、田中規王山行委員長、木暮幸弘自然保護委

員長、加藤博安全研修委員長、荒木輝夫事業委員長が各委員会の前年度の実績などを報告し、新年度の計画を説明した。

支部山行は24年度、上高地集中（7月）、尾瀬合宿（10月）を中心に例年通り月1回のペースで実施。自然保護委員会は公益事業として10月、利根沼田自然を愛する会との共同企画で「玉原観察会」を行う予定。安全研修委員会は、地図読み山行、気象研修会、夜間歩行とツエルト設営、ロープワーク研修などを継続的に開催、安全登山に向けての会員の意識と技術の向上を目指す。23年度の会員の登山届受理件数は160件、延べ419人だった。

総会には会員66人のうち20人（委任状25人）が出席した。

▼ 4議案が承認された2024年度通常総会＝前橋市中央公民館



▲あいさつする
根井支部長



2024年度 群馬支部役員

顧問	西田 哲彌	監 事	中山 達也	安全研修委員長	加藤 博
顧問	平野 紀子	監 事	鈴木 良徳	事業委員長	荒木 輝夫
支部長	根井 康雄	事務局長	小池 千秋	総務委員長	小池 千秋 (兼)
副支部長	木暮 幸弘	山行委員長	田中 規王		
副支部長	齋藤 繁	自然保護委員長	木暮 幸弘 (兼)		

2024年度主な予定

期 日	行 事 名	場 所
5月10日	支部報22号発行	
5月15日	群馬支部通常総会	前橋市中央公民館
5月25日～26日	全国支部懇談会 (神奈川大会)	神奈川県
6月19日	支部役員会	Zoomにて
6月22日	日本山岳会総会	
7月7日	谷川岳山開き	みなかみ町土合
7月17日	支部例会	前橋市中央公民館
7月26日～28日	支部山行 (上高地集中)	上高地周辺数コース、山研宿泊
8月11日	山の日イベントin谷川	谷川岳周辺
9月18日	支部報23号発行	
9月21日～22日	日本山岳会指導者講習会	小諸市周辺
9月22日～23日	上州武尊山スカイビュートレイル	武尊山周辺
9月25日	支部例会	前橋市中央公民館
10月6日	谷川岳閉山式	みなかみ町土合
10月13日	玉原自然観察会	玉原高原
10月16日	支部役員会	
10月19日～20日 (21日)	尾瀬合宿	尾瀬周辺数コース、福島支部合流
10月26日～27日	ぐんま山フェスタ	ビエント高崎 (エクセルホール)
11月3日	木暮理太郎翁を偲ぶ会	太田市
11月16日	研修 (キネシオテープ)	
11月20日	支部例会	前橋市中央公民館
11月23日～24日	関東四支部懇談会	千葉
12月7日	日本山岳会晩餐会	東京・京王プラザホテル
12月18日	支部役員会	
12月26日	支部山行	谷川白毛門
12月31日～1月1日	年末年始雪山合宿	赤城山
1月1日	支部山行	赤城長七郎
1月15日	支部例会	新年例会
1月18日	安全研修 (ロープワーク)	ぐんまこどもの国
1月25日	安全研修 (ロープワーク)	ぐんまこどもの国
1月	支部報24号発行	
2月19日	支部役員会	
2月	安全研修 (アバランチ)	
3月2日	自然保護委員会 (スノーシューハイク)	玉原高原
3月19日	支部例会	前橋市中央公民館

群馬支部10周年記念式典

群馬支部設立10周年記念式典が2024年6月29日(土)、高崎市の観音山丘陵にあるサンコーカントリークラブ内のホテルで開かれた。

創立120周年を迎える日本山岳会だが、群馬支部は2013年7月に全国32番目の支部として設立され、この7月で11年目を迎えたばかり。経験豊富な精鋭メンバー20人という最小会員数でスタート。その後、続々と新入会員を迎え、設立10年で会員数では70人を超えるまでに大きく育ってきたが、まだまだ10年。全国の支部の中では比較的年齢層も低いが、その分、支部としての総合力も発達途上。そんな10年目の群馬支部のテーマは新しい会員も含めた「骨太の支部」への脱皮だ。

そのため、支部では昨年夏からさまざまな10周年記念事業を行い、それらを通して支部の「足腰」を鍛え、支部内外のネットワークを広く強く張り巡らせることに主眼を置いて、さまざまな山行や行事に取り組んできた。その主なものとしては、昨年8月の北海道支部との交流山行(大雪山旭岳)、11月のダウラギリ南東稜BC(1978年群馬岳連隊)へのト

レッキング、そして9月にはコロナ禍で中断されていた全国支部懇を水上温泉と谷川岳山麓で復活開催し157人の参加を得て盛大に開くことができた。

これら一連の記念事業の締めくくりともいえるのが、この「群馬支部設立10周年記念式典」だった。当初は昨年の全国支部懇と記念式典を兼ねることも検討されたが、地元群馬の山仲間とも10周年をともに祝いたいという考えもあり、あえて支部懇とは別に開くことになった。

式典当日は日本山岳会本部から橋本しをり会長が多忙な中にもかかわらず急遽駆けつけ、群馬支部にはなじみの深い松田宏也理事、そして福島、千葉、山梨など近隣支部からの参加もあり、栃木支部の渡邊支部長からは丁重な祝電も届いた。県内からは群馬県山岳・スポーツクライミング連盟の吉田直人会長、群馬県勤労者山岳連盟の清水隆次会長、日本山岳会の第3代会長で群馬県出身の木暮理太郎の顕彰活動を地元太田市で続けている「木暮理太郎翁の足跡を語り継ぐ会」の浅海崇夫事務局長らも。そして支部草創期を支え、発展の礎を築かれるも残念なが



全員で記念撮影



八木原会員の講演

らとともに故人となられた田中壯吉初代支部長夫人の田中千枝子さん、北原秀介第2代支部長夫人の北原和美さんの参加も得て、群馬支部会員を含めた40人で支部10周年の締めくくりを祝うことができた。

限りある時間ではあったが10周年を他支部や他団体の関係者らとともに祝い、支部のこれからの10年、20年に向けた意義ある「誕生祝」となった。

午後3時からの式典では橋本会長の心温まる祝辞に続き、参列者の自己紹介が続き、それぞれに山への思い、群馬支部との関わりなどを熱く語り、和気あいあいとした雰囲気の中、時間の経つのも忘れるほどの盛り上がりぶりだった。

式典に続いて、設立時の事務局長で田中壯吉初代支部長とともに支部の起ち上げに尽力された八木原圀明元日山協会長が記念講演を行い、今だから語れる裏話もユーモアたっぷりに披露され、時にはみなで爆笑しながらその興味深い話に耳を傾けていた。

午後5時から祝賀会へとモードチェンジ。アルコールが入ると、テーブルを越えて、いくつもの大輪の花が開くように談笑の輪が広がり、楽しい時間をともに過ごした。有志達はホテルに泊まり、さらに日にちが変わるころまでの2次会へ。

また、36ページの小冊子ではあるが、支部報に掲載された主要な記事を群馬支部10年の歩みとしてまとめ、山岳界や県内、国内、そして世界の動きを年表形式に併載し、さらに田中壯吉初代支部長と北原秀介第2代支部長への追悼文、両夫人の寄稿などで構成された「設立10周年記念誌」もこの式典にあわせて発行された。

山行報告

恒例となった上高地夏合宿

日本山岳会山岳研究所に集まる上高地集中合宿。今年は7月27日に涸沢往復、重太郎新道から奥穂、そして蝶ヶ岳の3コースが集まる形で実施された。また高頭祭、アジア山岳連盟の国際山岳平和祭に出席した支部長は新潟県長岡市から山研に駆け付けた。山行も無事こなし、13人が上高地のはずれにたたずむ山研に集い、それぞれが今、下りてきたばかりのアルプスの暑い夏山の思い出を語りあい、和気あいあいとした山の一夜を過ごした。

奥穂高岳山行

奥穂高岳コース4人（田村、星野、川端、小池）は、7月26日（金）に上高地から重太郎新道で奥穂高岳山頂を目指し、穂高岳山荘泊。27日（土）に涸沢経由で上高地まで戻る1泊2日の一周コースの山行へ。

初日出発時は、青空も覗くさわやかな天気で順調に歩を進める。林の中を1時間程度進むと天然クーラー（風穴）があり、体を包む冷気が心地よい。時々天狗沢を見上げながら2時間半程で岳沢小屋に到着した。クマ被害のため7月22日からテント場は利用禁止となっていた。適度に休憩を挟み、ヘルメットを着用して貴美子平へと向かう。ここからが一気に



重太郎新道を登る

奥穂高岳山頂



急登となり、鎖場あり梯子ありだ。大正時代にこのルートを開拓した今田重太郎の功績に敬意を払いながら歩を進める。足場の良いところで振り向けば岳沢を見下ろす壮大で高度感十分な景色が目に飛び込んてくる。貴美子平に到着し前穂高岳を見上げる。今回はスルーするが次回の楽しみに…。アオノツガザクラやオオイワカガミなどの高山植物に癒やされながら奥穂高岳に向けて吊尾根を進む。尾根沿いの快適なルートを進み、終盤の急登を登り上げれば、奥穂高岳山頂だ。山頂付近では雨に降られたが、下山路を慎重に進み、無事穂高岳山荘に到着した。

2日目は天気も良く、涸沢へ向けザイテングラートを快適に下る。清涼な空気を感じながら、岩稜と青空、雪渓、植生の緑が良く調和した涸沢らしい景色が目に染みる。涸沢ヒュッテの冷たい水で気持ちを整え、涸沢を後にした。標高差1700m以上の自然と歴史を感じる素晴らしい2日間であった。

(小池 千秋)

涸沢カールコース

今回、初の合宿参加でしたが、初めてコースリーダーを務める機会にもなりました。初日は緊張と不安が入り混じる中でのスタートでしたが、歩き出すとほどなく、岳沢湿原の朝靄や森の中に差し込む光など上高地特有の風景が広がり、リラックスして歩を進めることができました。

山の懐という言葉に相応しいロケーションの涸沢ヒュッテ、そびえ立つ前穂高岳・吊尾根・奥穂高岳・



メンバー全員で

涸沢岳・北穂高岳は圧倒的な迫力で、そこに立っているだけで気持ちが高揚しました。同日に、目の前に見える吊尾根から奥穂高岳を同支部の先輩たちが歩いているということもあり、自分もいつかあの道を歩きたいという憧れも募りました。

2日目は、下山前にザイテングラートのふもとまで足を延ばし、お花畑を散策することに。時期には少し遅れましたが何とか咲き残りのチングルマを見つけ、穂高連峰を背景にしたかわいらしい姿を写真に収めることができました。下山後の山岳研究所ではゆっくりと寛いで疲れを癒やすとともに、諸先輩



咲き残りのチングルマ

方の経験談をお聞きしながら、次の山行への英気を養いました。

リーダーに関して、今回は危険箇所が少ない行程であるとは思っていましたが、歩行距離が長く、休憩を取るタイミングや時間配分、歩行速度、横尾までの平坦な道とそれから先の登りの歩き方など、判断に迷うことが多く、ルートの難易度だけではない難しさがあると痛感しました。それでもメンバーの皆さんのご協力に支えられ、大きな事故もなく無事に合宿を終えることができたのは何よりでした。力不足ではありましたが、たいへん良い経験をさせていただきありがとうございました。今回の学びを、今後の山行に生かしていきたいと思います。

(白石 直子)

三角点峰と蝶槍

昔の記録を調べたら1998年10月に三俣から入り、蝶ヶ岳、常念岳を回って三俣に下りている。この時、三角点峰も蝶槍も山頂を踏んでいるが、無線の交信をしていない。その後、蝶ヶ岳は徳沢から入り長堀山経由で再訪し、常念岳も三俣から入り大天井岳に抜けて無線交信を済ませていた。

三角点峰と蝶槍が残ってしまい、だいぶ前から気になっていた。そのような理由から、わざわざこの2峰を目指すことにした。

小梨平のキャンプ場を過ぎ、左岸の道を行こうとしたら、なんと通行止め。結局河童橋まで戻り山研前を通り明神橋経由で徳沢、横尾と歩いた。2、3年前までは横尾でキャンプして入ろうと思っていたが、キャンプ道具を背負う気が失せ、予約した横尾山荘に入る。

朝食は断り、6時頃歩き出す。槍ヶ岳の道を左に分け、少し行くと短い階段があり急登が始まる。地形図を見て覚悟はしていたがかなりの急登、とにかく足元に注意しながらひたすら登る。槍見台で期待して振り返ったが、上半分は雲の中だった。以後、今回は穂高、槍は見えなかったが、蝶槍とバックの常念岳はかろうじて見ることができた。

三角点峰と蝶槍で念願の無線をして戻る。もう長堀山の長い稜線を歩く気力もなく、蝶ヶ岳もパスして登った道を下る。横尾で祝杯の缶ビールを空けて山研に向かう。

(中山 達也)

NEWS

[速報・短信]

熊野古道集中山行

日本山岳会創立120周年記念行事の山岳古道調査は、各支部において最後の詰め段階を迎えようとしている。そんな中、5月18日に、中辺路道、小辺路道、大峯奥駈道などから熊野本宮大社大斎原に集合し、那智勝浦温泉のホテルで懇親（100人ほどが参加）する熊野古道集中山行が本部古道PT・山行委員会によって企画・実施された。

群馬支部からは中辺路を歩いた川端・浦野会員のほか、根井支部長が最終日に合流し、支部の古道調査の進捗状況などを報告した。

【群馬支部における古道調査の進捗と今後の予定】

群馬支部の古道調査も終盤を迎えている。すでに中山道碓氷峠周辺、榛名山については原稿を提出し、現在、赤城山、会津街道と越後への道の一部（玉原越え）が原稿整理中（一部執筆中）。残りは清水峠、三国峠となっている。また三坂峠は現地調査も済んでいるが、実際に歩くには危険なため、コラムでの執筆とし、新潟県側も含め、幅広く文献にあたっている。いずれも今年中の原稿提出を目指して進行中。



大斎原（熊野古道集中山行）

全国支部懇談会

昨年は群馬支部主催で水上温泉と谷川岳山麓で開催された日本山岳会全国支部懇。第37回となる今年は5月25・26日、神奈川支部（込田伸夫支部長）主催で同県平塚市とその周辺で開催された。初日は同市湘南平にある岡野金次郎の顕彰碑前で第1回の碑前祭が行われた。岡野金次郎は初代会長の小島烏水

とともに日本山岳会設立に力を尽くしたキーマンの一人。

碑前祭の後、平塚駅前のホテルに会場を移し懇談会が開かれた。会には全国から150人ほどが集まり、群馬支部からは根井支部長ら4人が参加した。翌26日には、三浦アルプス縦走と鎌倉大仏ハイキングのグループに分かれて交流登山も行われた。来年の全国支部懇は10月に関西支部主催により大阪で開催される予定。



岡野金次郎碑前祭（全国支部懇談会）

東北・北海道地区集会

第37回東北・北海道地区集会は7月12・13の両日、裏磐梯のエングランデコリゾートをメイン会場に福島支部（渡部展雄支部長）により開催された。東北・北海道の7支部と、群馬のほか、埼玉、静岡、京都・滋賀、関西各支部を加えた75人が集まり、群馬支部からは根井支部長、木暮副支部長夫妻、中村会員の



福島・北海道支部の仲間と銅沼へ
（東北・北海道地区集会）

4人が参加した。

地区集会は12日午後、2011年の新潟・福島豪雨で壊滅的な被害を受けた只見線の復活と奥会津の自然を、写真を通じて海外に発信している星賢孝氏による「世界を魅了する、奥会津・只見線」の講演からスタート。懇親会は持ち寄った日本酒やワインなどを飲みながら、東北・北海道はじめ、参加各支部の会員たちが楽しく交流した。

翌13日は、磐梯山の西に続く猫魔ヶ岳への登山と磐梯山の山ふところにたたずむ爆裂火口跡の銅（あか）沼から五色沼へのハイキングに分かれて、裏磐梯の自然を満喫した。

高頭祭と国際山岳平和祭

日本山岳会第2代会長で、新潟県出身の高頭仁兵衛を顕彰する高頭祭は、毎年7月25日に越後支部により開かれている。第67回となる今年は、アジア山岳連盟創立30周年記念事業の舞台として、同連盟による国際山岳平和祭との併催として、盛大に開催された。

平和祭の参加者は、アジア山岳連盟の13カ国18団体から77人、日本山岳・スポーツクライミング協会、新潟県山岳協会、日本山岳会、日本勤労者山岳連盟など国内関係者125人とあわせ200人を超え、群馬支部からは八木原会員（アジア山岳連盟日本委員会）、根井支部長、浦野会員、そして前田特別会員（JACアルピニズムクラブ）が参加した。

25日は弥彦山大平園地での高頭祭に始まり、夕刻からのたいまつ行列登山へと、上空に大輪を咲かせる花火を仰ぎながら夜まで恒例行事が続いた。

26日は午前中の座禅や酒蔵見学などのエクスカー



高頭祭

ションのあと、午後からは記念式典、記念祝賀会が開かれた。高頭仁兵衛の母校の小学生による太鼓演奏もあり、パーティーでは英語やネパール語、韓国語、モンゴル語などで語り合う姿が印象的な国際色豊かな催しとなった。

谷川岳山開きと山の日イベントin谷川岳

谷川岳山開きは例年7月第1日曜日。今年は7月7日に行われた。日本山岳会群馬支部からは午前4時からの神事に来賓として参加した根井支部長ほか、7人がかがり火係として参加。夜行臨時列車で訪れる登山者やハイカー、観光客を迎えた。

8月11日の山の日には同じく恒例の「山の日イベントin谷川岳」が開かれ、名物ツアーの清水峠越えや巖剛新道からの谷川岳登頂、毎年人気のスイーツと自然観察ツアーにあわせて44人が参加した。



山の日イベント・スイーツツアーの出発式

群馬支部からは根井支部長ほかスタッフとして7人が参加し、本部のほかスイーツツアーや清水峠弾丸ツアーのガイドにあたった。

事務局だより

【主な活動・事業・イベント】…………… (2024年)

- 岳連理事会 (5/8 前橋市総合福祉会館)
- 支部山行 (5/12 袈裟丸山 (弓の手コース))
- 熊野古道集中山行 (5/16～18 和歌山・紀伊田辺、新宮)
- 全国支部懇 (5/25～26 神奈川・平塚)
- 支部連絡会議 (5/30 Zoom)
- 安全研修委員会地図読み講習山行 (6/2 後袈裟丸山)
- 岳連理事会 (6/12 前橋市総合福祉会館)
- 群馬県山岳団体連絡協議会総会 (6/13 前橋市元気21)
- 支部山行 (6/15 足尾・中倉山)
- 支部役員会 (6/19 Zoom)
- 日本山岳会総会 (6/22 東京・主婦会館)
- 谷川岳山開き (7/7 みなかみ町土合)
- 岳連理事会 (7/10 前橋市総合福祉会館)
- 東北・北海道地区集会 (7/12～13 福島県・裏磐梯)
- 支部例会 (7/17 前橋市中央公民館)
- 高頭祭・国際山岳平和祭 (7/25～27 新潟県長岡市・弥彦村)
- 夏合宿・上高地集中 (7/26～28 上高地山研(前

穂～奥穂・涸沢・蝶ほか))

- 山の日イベントin谷川岳 (8/11 白樺小屋前泊)
- 安全研修委員会沢登り講習山行 (8/11 赤城・荒砥川)
- 役員会 (8/21 Zoom)
- サークル0 北八ヶ岳合宿 (9/14～15 北八ヶ岳・縞枯山荘)

【今後の主な予定】……………

- 支部例会 (9/25)
- 指導者講習会 (9/21～22 小諸・安藤百福センター)
- 上州武尊山スカイビュートレイル (9/21～23 上州武尊山周辺)
- 支部連絡会議 (9/26 Zoom)
- 尾瀬合宿 (10/19 尾瀬長蔵小屋 (福島支部と合同))
- ぐんま山フェスタ (10/26～27 ビエント高崎)
- 木暮理太郎翁碑前祭 (11/3 太田・生誕地の碑)

日本山岳会群馬支部報 第23号 2024年9月18日

発行：公益社団法人 日本山岳会群馬支部
〒371-0051 前橋市上細井町1200-7(根井方)

<https://shibu.jac1.or.jp/gunma/>

編集者：総務委員会広報グループ支部報担当

発行者：根井 康雄 印刷：上武印刷株式会社